

# 地域おこし協力隊 奮闘記 Vol.30



今月は  
藪田佳奈が  
書いています

## 「移住する」ということ

私はこの町に移住して2年7か月がたちました。「まだ」と感じることもあれば、「もう」と感じることもあります。今回は自分のテーマの一つでもある「移住」についての活動を書きたいと思います。

### 移住の現状

移住希望者はたくさんいるがすぐに住めないという現状が、大山町にはあります。

私は総務省が企画する「地域おこし協力隊」の制度を使って大山町にきています。この制度は地域外の人材を受け入れ、地域協力活動を行い定住・定着を図るもので、現在日本中には2、500人以上の協力隊がいます。私自身も移住者の一人ということも

あり、移住を希望しておられる人や移住促進のため奔走されている方など、移住にまつわる人々に出会う機会がとても多く、「移住」というキーワードにこれまで以上に興味を持つようになりました。

### シェアハウスのまど間

昨年4月にオープンしたシェアハウス「のまど間」は、地方の暮らしや移住を検討する人、大山町に興味がある人が住むために作ったものです。

短期間でも実際に住むことで、「自分が大山町で暮らしたらい」とイメージがしやすくなるのではないかと思います。また、最近仕事をしたと希望する人には知合いの芝農家さんのところで仕事を手伝わせてもらったり、空き家のお掃除のお仕事を紹介したりという試みも始

めました。短期の滞在でも働ける仕組みを作りたいと思っています。

### てまひま

大山町に移住してきてすぐ、築137年の大きな古民家に出会い、購入しました。空いているスペースで現在は留学生やアーティストインレジデンスの受け入れなど、一定期間住める場所としても使っています。また、いろんな人が交流できる場所を作ろうと、月に1回のペースで飲食営業も始めました。

大山町にやって来たときに心細かったこと、寂しかった時に町の人に助けてもらってうれしかった私自身の体験を活かして、どちらの施設もなるといえる人と交流できるようにしています。「この町に住みたい!」「大山町が大好き!」という人が一人でも増えるようにこれからも活動していきます。

### ◆問い合わせ先

地域おこし協力隊・藪田  
(080・2942・6517)



▲集落の方々と交流しました

もう一つは仕事です。住みたくても仕事が無ければ食っていけません。どちらの課題